

NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 3 LESSON 5 授業例①

M.K. 先生

指導計画表

(全 10 時間)

時間	学習内容・主な活動
1	<ul style="list-style-type: none"> ■とびら ・世界各国の家を写真提示 ※どこの国か考えさせる ■GET ・主格を表す関係代名詞 who,that の導入 ※家にあるものを英語で説明する p.53 活動
2	<ul style="list-style-type: none"> ■GET Part1 本文 ・語句・表現の導入 ・本文の導入・理解 ・音読・暗唱
3	<ul style="list-style-type: none"> ■GET Part 2 文法の導入 ・主格 who,which を導入 ・ゲームで活動 ・語句・表現の導入
4	<ul style="list-style-type: none"> ■GET Part 2 本文 ・本文の導入・理解 ・音読・暗唱 ・コミュニケーション活動
5	<ul style="list-style-type: none"> ■GET Part 3 ・目的格 that, which の導入 ・カードゲーム ・語句・表現の導入 ・本文の導入・理解
6	<ul style="list-style-type: none"> ■USE Read ・語句の導入 ・内容理解
7	<ul style="list-style-type: none"> ■USE Read ・音読 ・Try 世界の家調べ

時間	学習内容・主な活動
8	<ul style="list-style-type: none"> ■USE Mini-project ・日本紹介 ・p.60 ききとり練習 ・プレゼン資料作り
9	<ul style="list-style-type: none"> ・日本紹介 ・プレゼン準備
10	<ul style="list-style-type: none"> ・日本紹介 ・発表会

実践例

1. LESSON ねらい

LESSON5の題材は「日本や外国のさまざまな家について知る」「住む文化について関心を持つ」「そこに住む人々の生活との関係について考える」です。文法の到達目標としては、「that や who, which を使って人やものを説明することができる」。また、output な活動として、この科で習った文法事項を使って「日本的な事物を英語で説明できる」です。

この課を学習する前に生徒たちには、この課の目標を事前にプリント（資料1）で配布し、LESSON 終了後書き込んでもらいました。到達目標を明確にすることでどのように授業が展開していくのか生徒が先取りできます。

この LESSON でねらったことは、3年生の文法でもっとも大切な関係代名詞の主格・目的格を理解し、使えるようになること。特に力を入れようと思ったところは、関係代名詞の文法を含んだ英文を使って日本の文化についてプレゼンテーションすることです。

2. Lesson の導入から流れ

【とびら】 では日本各地や世界各国の家や風物、文化的なものなどをていねいに提示し、この課の Houses and Lives について興味を持たせるようにしました。英語資料集などを使い世界各地の伝統的な家を見て、それぞれの家の特徴を発表してもらいました。その中に、USE で読むモンゴルと中国の家についても軽くふれました。

【Get Part1】 教科書の内容に入る前に関係代名詞を使い「人を詳しく紹介することができる」という目標で、有名人を who を使って説明する表現を練習させました。

（基本文）

I like ~. He/ She is □who .

例) I like Sawa Homare.

She is a soccer player who plays for Japan's national team.

その時もうひとつ加える表現も練習させました。

I think she is ~.

～には、cool かっこいい cute かわいい great すごい funny おもしろい などを加えます。

そのメモを持ってアイコンタクトを意識し、友達と会話をします。友達にインタビューしたらその結果を表にまとめ、レポートとしてノートに書きます。

例 Sawa Homare is a soccer player who plays for Japan's national team.

（配布プリント）

会話の相手	説明した有名人
例) 太郎	Sawa Homare

生徒は自分たちの好きな人について楽しそうに会話活動をしていました。

【Get Part2】 では本文を習う前に「自分がほしいものを店員に説明できる」という目標で活動させました。

例) I want a(色) bag which has many pockets, which was made in Italy which can be carried on the back which has a long zipper・・・など

次にアイコンタクトを意識して友達と会話し、友達がどんなかばんがほしいのか聞いた情報をメモしました。

名前	ほしいかばん	色

活動の後は、インタビュー結果をノートにレポートしました。

例) Kenji wants a blue bag which has many pockets.

Get Part3 ラストのパートでは名詞を文で説明する「過去にしたことについて感想を話すことが出来る」という目標を設定しました。

(基本文) 過去にしたことについて感想を言う
練習

The movie that I saw last week was interesting.

映画 ←私が先週見た = おもしろかった I saw "Harry Potter."

会話練習をしてインタビュー結果をまとめる。

名前	したこと	いつ	感想
太郎	映画を見た	先週	おもしろかった

上記 Part1~3 のこの活動は本文導入の帯活動として行います。クラスの友達と英語で話す活動です。インタビューを終えて、結果を英語で書きます。生徒にとっては自分の興味関心のあることをお互いに会話するので楽しく活動できます。そして、レポートを授業中に発表し、プリントでまとめてクラスで共有することで、活動のレベルが上がっていきます。

USE Read ここで扱われているのは、世界各国の家の中から中国の土楼と、モンゴルのゲルについてです。自然環境や文化と、そこに住む人々の生活との関係について学ぶ題材です。土楼やゲルについてよく知っている生徒もいれば、あまり知らない生徒もいます。写真を見て気づくことや、疑問に思うことをクラスで意見を出し合い挙げさせます。(ブレインストーミング的に)日本の家と違うところはという方向付けをすると意見が出しやすいです。2つの家についての情報をクラス全体で確認します。

本文のCDを聞かせながら、黙読させます。それぞれの家の特徴を読み取ることを目標とさせながら、黙読するように伝えます。フラッシュカードなどで新出語句の発音と意味を確認します。次に、In-Readingの1, 2, 3を取り組ませます。3番は個人で考えた後、グループで活動させて、意見を出し合いその後、グループごとに発表させます。黒板に表を作り整理します。

内容を理解した上で、範読を聞いて理解を深めその後、音読をします。

Post-Readingでは2つの家の特徴や生活様式を学んで、思ったことや考えたことを表現する活動をします。教科書の表現を参考にしながら、わかったことや思ったことを表現していきます。(英語で難しい場合は日本語でもよい)自分が住むならどちらがいいかなど、具体的に質問し、その理由も考えさせると意見がだしやすくなります。家庭学習で、「世界の家調べ」を提案したら、トルコ・カッパドキアにある岩山の家、ペルーのトトラという草で浮き島をつくりくらししているトトラの家、ドイツのハーフトインバーの家などについて調べてきて発表してくれました。

USE Mini-project このLessonのまとめとして、USE Mini-projectをおこないました。「日本紹介のプレゼンテーションをする」が、ここのもっとも大きなねらいです。

p.60のメッセージを聞かせ、1を正確に聞き取らせませす。次に2の内容を読んで説明されているものを正確に読み取ります。

3では外国の友だちに日本のことを説明するための原稿を書く、ということに挑戦しました。クラスを6グループにわけて、それぞれのグループごとにp.61のメモを参考にプレゼン原稿(資料2)を作ります。

生徒の紹介したもの

食べ物—おにぎり・おでん・おせち・寿司
年中行事—七五三・節分・夏祭り・盆踊り
住まい—たたみ・ふとん・扇子・箸置き
文化—書道・茶道・落語・アニメ・弁当
スポーツ—すもう・柔道 など

(メモ)

Japanese Box Lunches

Box lunches (bento) are very popular among Japanese kids and adults.

Kendama

Kendama is a kind of toy that has long enjoyed popularity in Japan among both children and adults.

Sumo

Two people who are wearing nothing but a mawashi, face each other in a dohyo and push, grapple, and try to throw each other.

5人～7人でグループを作り、一人一行は必ず英文を言うようにします。パソコンから写真をダウンロードして持ってきて、自作の絵を描いて見せた生徒もいました。目の前に留学生がいると言う場面設定で、書道道具を持参し、教卓で実際に字を書く生徒もいました。あまりにも上手に書いて見せたので歓声があがり盛り上がりました。盆踊りのプレゼンでは、グループで実際に踊って見せるなど、とてもインパクトの強いプレゼンで、どのグループも工夫を凝らし見えてとても楽しい時間となりました。

気をつけたところはプリントにもあるようにこの課で習った関係代名詞は必ず使うように指示しました。プレゼンの原稿作成は図書室で行うと、調べたいことがすぐに調べられるので時間の短縮にもなります。ここでのポイントは本番の発表の時は、Show 以外は暗記させることです。自分の力で英語を使うという力を身につけることができるのです。発表の時は、Evaluation sheet (資料3) に他のグループの発表を聞いて、評価します。発表が終わると、自分で一番よかったグループを選びます。そのシートは回収し、クラス全体にシェアします。

「聞いているとおでんが食べたくなった」「盆踊りが上手でびっくりした」「英語が聞きやすかった」「班で協力してすごいと思う」「他のグループの発表を聞いていると、日本についてもっと調べたくなった。」

生徒たちはこの「日本紹介」の Mini-project の活動を終えてより一層自分たちの国について関心を持ったと思います。そして、プレゼンを見た生徒たちの感想をその場で伝えることでより楽しく笑顔あふれる振り返りの時間となります。一生懸命取り組んだ生徒の誇らしげな表情が印象に残っています。友だちと協力して、何かをやり遂げるという経験が大事だと実感します。

(資料1)

Lesson5 の目標

1. 関係代名詞 who, that を使って人を詳しく紹介することができた

A 8割以上できた B 半分以上できた C 不十分

2. 関係代名詞 which, that を使ったものを説明することができた

A 8割以上できた B 半分以上できた C 不十分

3. 関係代名詞の使い方を理解して、ノートやプリントにオリジナルの英文などをつかってまとめることが出来た。

A 8割以上できた B 半分以上できた C 不十分

4. 日本紹介のプレゼンを班員と協力して取り組むことが出来た

A 8割以上できた B 半分以上できた C 不十分

※プレゼンを終えて見つかった自分の課題と、今後頑張りたいところ

(資料2) 教科書 p.61 を基本に

Mini-project 原稿

◆◆日本紹介◆◆

Please write in English!

I'm going to tell you about .
It's _____.

Why don't you _____?

Thank you for listening.

(資料3)

Evaluation sheet				
☆他のグループの発表を聞いて、評価しましょう。				
評価の基準は				
I content	II volume	III eye contact	IV good English	
興味深いか	声の大きさ	目線	英語力	
※各項目5点満点の合計を出しましょう。				
グループ全体を評価しよう。				
Group1				
I	II	III	IV	Total
/5	/5	/5	/5	/20
comment (コメント)				
Group 2				
I	II	III	IV	Total
/5	/5	/5	/5	/20
comment (コメント)				
Group 3				
I	II	III	IV	Total
/5	/5	/5	/5	/20
comment (コメント)				
Group 4				
I	II	III	IV	Total
/5	/5	/5	/5	/20
comment (コメント)				
Class() No() Name()				